

被災者はいま

2

停電時のマンション断水

共同水栓頼みの綱に

能性が高いと思いい、浴槽に水をためておいた。朝起きたら、生活用水を確保するたるとやはり停電。「これは水も出ないな」と分かった。受水槽から各戸に電動ポンプで水を供給しているため、9階建て全110戸が断水していた。

近隣のマンションも同じ状況だったが、近くの公園の水道は水道管に直結して

電気を必要とせず、水が出た。担当で建築士の渡辺成也さん(80)が「管理棟なら水が出るかも知れない」と言い出した。同様に断水していた近くのマンションで、管理人室の蛇口から水が出たという。町田さんは「まさか」と思って管理棟の屋外にある共同水栓をひねると、「ジャーっと勢いよく水が出た。こんなことって

あるのかと驚いた」。ブラックアウトが起きた時、ラポールと同様に電動ポンプを使うマンションの多くが断水した。だが、建物によっては、停電しても水が出る仕組みが備わっていたことはあまり知られていない。北海道マンション管理組合連合会事務局長でもある町田さんは「知っていればマンション内で生活用水が確保でき、住民の不安も少なかったはず」とみる。

札幌市が設置指導

札幌市は20年ほど前から、電動ポンプを使うマンションを建設する事業者に対し、停電時でも水道管から水を直接出せる共同水栓などの設置を指導している。市水道局はブラックアウト時でもその設備があることを認識していたが、「給水作業で忙しく周知できなかった」という。

(内山岳志)

電動ポンプ使えず

町田さんは未明の地震の直後に停電したが、一時的に復旧。また停電する可



水道管と直結し、停電時でも水が出た管理棟外の共同水栓と町田信一理事長

「停電や水道管の破裂でもし断水しても、この受水槽の水を使える。地震で水の大切さは痛感したから」。札幌市中央区のマンション「ラポール南山鼻」(南27西12)管理組合の町田信一理事長(78)は、敷地内の管理棟の地下にある巨大な受水槽を見つめながら、2年前の胆振東部地震に伴う全域停電(ブラックアウト)で断水した時の混乱を思い出す。